

■ 活動理念

持続可能な開発のための復興支援

～ 1000 年先に通用する、地域に根付いた未来をつくる～

2011年3月11日、自然は人間がつくり上げた街や暮らし、そして命を一瞬にして奪い去ってしまいました。東日本大震災からの復興を前に、私たちは自然との共生が可能なくらしのあり方を問われています。

3.11生活復興支援プロジェクトは「持続可能な開発のための復興支援」を活動理念として掲げ、そこに住まう人やくらし、伝統・文化、資源といった地域性を尊重した復興をサポートし、遠い未来にも通用しうる価値の発見・創出を目指しています。

■ 本プロジェクトの課題

学生ボランティアは震災支援に大きく貢献し、ボランティア活動は私たち学生にとっても貴重な体験になっていることは間違いありません。しかし、その中で現在いくつかの課題が存在しています。

①代が入り替わることによる生じる問題

震災から6年が経とうとしている中で、プロジェクトメンバーの置かれた状況は変化してきています。学生組織として今後継続していくためには、活動の担い手となる新メンバーを取り込み、ミッションの継承を促していく必要があります。

②プロジェクト内の風化

プロジェクト発足当初のメンバーが2016年度をもっていなくなってしまう。プロジェクト内において東日本大震災という災害が起きたという事実が風化していつてしまうことが懸念されます。

③金銭面の課題

被災地に行く際には、少なからずお金がかかってきます。関東と被災地を歩き来し、継続して活動を行うことには、金銭面の課題も存在しています。

■ 活動紹介



岩手県大船渡市三陸町越喜来泊地区



「結の道」整備

「結の道」整備
「結の道」とは、津波によって分断された泊地区をつなぎ、津波到達ラインを後世に残すための遊歩道です。構想から3年、2016年夏に道の整備が始まりました。

宮城県石巻市北上町十三浜相川・小指地区



集会所の解体・移設工事

集会所の工事
2011年6月に建設された仮設の集会所の解体・移設工事を行いました。長期間現地に滞在していたため、その間に住民の方々とのつながりを深めることもできました。

関東地区での活動



展示イベント

展示イベント
若い世代にも震災について興味を持ってほしいという思いから、本学の学生を対象を絞った企画を行いました。学生が興味を持つように広報・展示方法に工夫を凝らしました。



まちづくり会議の様子

まちづくり会議
月に1度の地区の会議に出席し、今後の支援活動や地区の在り方について住民の方と意見交換を行っています。これにより住民の方主体の復興を可能にしています。



集会所の完成式

集会所の完成式
移設した集会所（名称：小指観音堂）の完成を祝い、現地の伝統的な祭りの際に完成式を行いました。今後小指観音堂は、地区のシンボルとしての役割を果たしていきます。



インタビューをしている様子

今の被災地を映像で
住民の方へのインタビューや現地の祭りの様子を映像に収め、それにより被災地を広報していくという試みです。被災地に人を呼び込むことを目的としています。

■ 今後の活動計画

第1期 ～1ヶ月 緊急・援助期	第2期 ～半年 復旧準備期	第3期 ～3年 復旧期	第4期 ～10年 復興期
命を守ることを助けることが最優先	生存できる環境は確立	最低限の生活の環境が整う	生活水準を上げる
避難所	応急住宅	仮設住宅	一般住宅の建設
衣・食・住の情報	地域情報、安否確認 確実な情報の整理が必要	就職情報、住宅情報	メディアセンター
間仕切り、避難所の掃除、ラジオ体操	スポーツ大会やイベントの開催、ストレス発散の場が必要	メンタルケア、クラブ活動、教育...	介護、看護、メンタルケア...

震災当初の復興支援計画

泊地区チーム

泊地区は、2016年度住民の方々の「自立」を多く見る事ができました。そのため、今後は地域の方々の関心の高い「花プロジェクト」という企画に重点を置き、さまざまな企画をそこに絡めていくことを考えています。

相川・小指地区チーム

ボランティア団体ができるハード面の支援は終わりに差し掛かっていますが、コミュニティ形成などのソフト面の支援がこれから重要となります。地区の将来について、住民の方自身で考えてもらえるように働きかけます。

風化防止チーム

今後は、写真展や物産展など従来と同じような企画を行いながら関東のニーズというものを来場者とのコミュニケーションやアンケートなどを通して考えていきます。そして、関東のニーズにあった企画やこれから必要とされるものを実施していきます。

